



- Link “新風”

Vol.40
(通算 第133号)

あけましておめでとうございます。
今…会社創立40年目という節目をむかえています。
すべての面で原点に立ち返りつつ、社員一丸となって頑張っていきましょう。



『たそがれの予感』

今月の表紙

年末の夕暮れ時。父の墓参りをした時に撮影しました。
薄紫の夕空に白い月が優しく美しく浮かび、「新たな年への希望と期待」を伝えているかの
ように感じました。

(写真投稿 営業部 荻田部長)

撮影日時: 2001年12月29日17時 撮影場所: 富士市岩本山実相寺

2011年 年頭にあって



明けましておめでとうございます。月並みですが、皆さんが無事に新しい年を迎えることができた事をありがたいことと感謝します。今年一年、兎のように素早く動き、思い切り飛び跳ねて、飛躍の年になるよう頑張りましょう。

兎と言えば、小学校時代に兎を数匹飼っていて、よくレンゲ畑で一緒に遊んだものです。とてもかわいがっていた記憶があります。兎にまつわる話はおもしろいものがあります。月で兎が餅つきをしているとよく言われたもので実際そのように見えるわけで何か夢がありましたね。

でも、当時月に人が行くとは思いませんでした。月の兎は、仏教説法から出た話のようです。もう一つ、昔ダットサンという車がありましたが“脱兎”の如く速くという思いが込められた名前と聞いています。結構、兎は技術革新と縁が深いのかもしれません。今年は、キューリー夫人のノーベル化学賞受賞から100年目に当たり国連が定めた「世界化学年」だそうです。日本から世界に画期的な技術が発表され、未来に希望を与えてくれるよう願っています。

さて、改めて言うまでもありませんが、景気は一向に良くなることはないとの判断で経営を行っていかねばなりません。1月3日付静岡新聞に県内景気動向調査の結果が出ていましたが、景気は足踏み状態であるとしています。今、国家を挙げて景気回復に取り組まなければならない時、国政は、党利党略に走りお金が回らない政策では閉塞感のみが漂ってしまい情けなくなってしまいます。このことと我々の企業成績とは関係有りませんが、ちょっと愚痴ってもみたくります。

静岡新聞の調査の中で注目していいことは、長期間慎重姿勢だった雇用と設備投資に明るい兆しが見え始めたとあります。この傾向が全国的であるならば我々にもビジネスチャンスが広がるかも知れません。兎の如く大きく耳を立て情報をかき集める行動を一層高めていく必要があります。

ここで大事なことは、現場に出ることと聞き上手に徹することかと思えます。どんなにインターネットで良い情報を掴んでもそれを現場に出て確かめなければなりませんし、現場に出て流暢にペラペラ弊社の製品説明をするだけでなく、相手が何を言わんとしているのか、何が問題なのかを聞き出しそれを自社の製品に反映させるなどして付加価値の高い行動をとることです。そうすれば、ライバル会社の顧客を奪うこともできるでしょう。

もう一つ、上司は現場で掴んだ部下のどんな些細な情報をも聞き漏らさないことです。意外と些細な情報が成功と失敗の分かれ目につながる場合があるからです。考えてみると、我々は未だ市場の一握りの顧客先しか獲得していないわけで、情報を整理・整頓し新規開拓、用途開発、技術開発、ライバルの顧客先を奪うことなどを強力に推進していけば活路は開けてくるはずで。

嘗てのように競合会社が、それぞれの得意分野で営業活動し棲み分けていた時代は、あり得ないことで、輝く業界・産業には挙ってライバルが押し寄せて来て、共食いを繰り広げることになります。今までライバルでなかった会社も参画してくるでしょう。

年明けの箱根駅伝は、早稲田大学が21秒差で東洋大学を振り切り18年ぶりに総合優勝を飾り思い出深いものになりました。評論家曰く「早稲田には勝とうという執念があった、東洋大は守りに入り攻める勢いがなかった」と。いつの時代でもどんな競技でも言われる言葉であり、真理であります。商売も同じであり、勝つ執念が無ければとても目標は達成できないし、自己を高めていくことも覚束ないでしょう。製品やサービスに差別化も大事ですが、この勝つという闘志がきわめて重要かと考えています。組織の中であって、自己を高めていくことは、やっぱり意識を変え、やり方を変えていくことでしょう。その根底には“感謝”“ありがとう”が脈々と流れていないとダメ。

利になることは、それは当たり前のこととして感謝の言葉すら出ない。その代わり利非ずの場合、不満たらたら言って憚らない、こういう人材がいる会社、組織は早晚行き詰まってしまうでしょう。自分もやるし、他人(ひと)もまた懸命にやってくれるから、今日の自分があるのだという気持ちをお互いに噛み締めて日々を過ごしていかなければと思います。節目の40期を迎えている今、感謝の念を持って困難に立ち向かい、明るく楽しく仕事をしていきましょう。明日の経営のために！



社長 赤堀肇紀

